

文京区発！自然観察会『不忍池渡り鳥観察会』報告

## 不忍池でも始まった「エサやり自粛」の動き

開催日：平成19年12月8日（土）10時～12時30分

場 所：上野公園不忍池

参加者：小学生等 14名、保護者 9名、NPOスタッフ：2名、

NACOT 指導員： 田和、松田、町田、今徳、原田、仁平、小口、  
高野、市田、飯山、柏木、西江、田邊

毎年渡り鳥観察会を実施している不忍池で、カモのエサやり自粛キャンペーンがスタートしました。今回は、その点について市田さんと田邊から報告します。

12月8日（土）、不忍池の渡り鳥観察会に参加しました。日影は少し寒く感じましたが、日向はポカポカ暖かい観察会日和でした。オナガガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、マガモ、ホシハジロ、ヒドリガモといったカモの仲間が今年も日本に渡ってきて、池を訪れる人たちの注目を集めています。

今回、私は東京都鳥獣保護員として観察会の最後に「不忍池 カモの餌やり自粛キャンペーン」についてお話させていただきました。井の頭公園でのキャンペーンに刺激され、「鳥獣保護は東京都から！」との思いを胸に、東京都では全国に発信すべく、不忍池をモデルとして「カモの餌やり自粛キャンペーン」を行うことになりました。指導員の皆さんなら、当然、野生生物に餌をやるのはよくないことだと理解されていると思いますが、一般の人の中には、餌やりはいいことだ、と勘違いしている場合が多々あります。ペットに餌をやるのと混同しているのかもしれない。



野生生物は本来自分で餌を探して生きています。人間が餌をやってしまったら、餌を見つける能力が低下して、北国へ戻る時期が遅れます。また、パンなどはカロリーが高く肥満になって、長時間飛べなくなってしまう鳥もいます。とり過ぎで猫などに襲われてしまうこともあります。肥満になると人間も体調を崩しますが、カモはホルモンバランスが崩れて、繁殖にも影響が出るし、渡りの衝動が起こらなくなってしまうそうです。さらに、渡らないで居残ってしまうと他の日本にいるカモと交雑して雑種が出現してしまい、結果的には、生態系を壊すことになるのです。また、餌やりによる水の汚染も深刻です。「パン1枚ならいいじゃないか」と言う人がいますが、そういう人が百人いたら、千人いたらどうなるでしょうか？ 水槽で飼う金魚に食べきれない餌をやると、水はすぐに濁ってしましますが、池も同じです。たくさんの餌をやっても食べきれませんがありません。

ここ数年、鳥インフルエンザが脅威となって、鳥類の輸入を禁止している国が多くあります。野鳥は多かれ少なかれ細菌やウイルスを持っていますから、その点でもカモとの距離を保たなければなりま

せん。不忍池ではカモだけでなく、カモの餌に群がるユリカモメも問題になっています。つい最近不忍池で、あまりにも人間を恐れなくなったユリカモメが、飛翔中に人間の子どもにぶつかったという事故がありました。人間さえ餌をやらなければ、ユリカモメからこんなに近づくことはないのです。

野鳥に餌を与えることは、本当の愛鳥活動ではありません。野鳥が好きなら、そっと見守っていただきたいと思います。そして、できるだけ多くの野鳥が生きられる環境を整えることが私たち人間のすべきことです。野鳥にとって好ましい環境は、きっと私たち人間にとっても心地よい環境に違いありません。腕章を付けた保護員が「止めてください」と言うから止めるのではなく、本当の意味を理解し、それが常識となる日が来るまで、活動を「しつこく」続けていきたいと思っています。子どもたちにカモを観察してもらい、餌やりの自粛をアピールできた今日の観察会は、とても意味のあるものでした。

(市田淳子)



不忍池渡り鳥観察会も今回で5回目となりました。第1回目の「参加者・スタッフの感想」を読み返してみても、当初から野鳥へのエサやりに関してはいろいろな意見が出されていたことが良く分かります。当時は、不忍池の端で「鳥のエサ」を販売している人もいて、そんな人の「営業妨害になる」という様な意見も出る時期でした。世の中やNACOTも少しずつ「考え方」が変化して来ていますが、楽しそうに鳥にエサを与えている親子に声をかけるのは正直まだ躊躇してしまいます。

昨年春、不忍池でこども達と観察会をしている時に、野良猫がユリカモメを狩るシーンに遭遇しま



した。野良猫がそんなに簡単に野生の鳥を捕まえられる訳がありませんが、人間が与えるエサにつられて岸に近づいて来たユリカモメに物影から突然飛びかかり捕えていました。

木陰に引きずり込んだ鳥を何匹もの猫が群がってバラバラにしてしまうのは、こども達にとっては衝撃的でした。「生き物のつながり」をメインテーマにしている文京区観察会としては、願っても無い機会とも思いましたが本当に「自然のつながり」として捉えて良いのだろうかと思いでしまいます。

今回の観察会中、「東京都環境局」の名前が入ったウィンドブレーカーを着た鳥獣保護員の方々がエサやりをしている人に声を掛けている場面を何度も見ました。でも、中には保護員が見えなくなるとまたエサやりを始める人もいました。緑の腕章をつけている私に気付くと与えるのを止める人もいましたので、言われた意味は分かっていたのですが、まだまだ理解し受け入れるまでには長い時間が必要な様です。

(文京区観察会担当 田邊貞幸)

